

15キロクラシカル

10キロフリー

馬場 2種目で優勝



悪天候の15キロクラシカルで力走する馬場

全日本学生チャンピオンズスキー大会12月20〜23日、北海道音威子府村チセネシリクロスカントリーコース

馬場直人(経営2・中野立志館高)が、ノルディック種目の15キロクラシカル(悪天候により10キロに変更)と、10キロフリースカントリー音威子府大

の2種目で優勝した。11月上旬からスウェーデンとノルウェーに遠征し、滑り込みをしたことを勝利に挙げた馬場は、「今シーズン勢いに乗るために結果を出すのが重要だった。両種目で優勝できたことはよかった」と振り返った。

馬場は続く全日本クロスカントリー音威子府大

冬季アジア札幌大会

馬場とOG清澤さん スキー日本代表に

2017冬季アジア札幌大会(2月19〜26日)のスキー日本代表が発表され、現役では馬場直人が、卒業生では清澤恵美子さん(平18経営、成城

会(25〜27日、同会場)ではノルディック種目の10キロフリーで2位に入

賞。好調なシーズンを送る馬場の活躍に期待だ。(上野夏帆・文2)

スキークラブ所属)の2人が選出された。馬場は1・4キロスプリントクラシカル、15キロフリー、10キロクラシカル、5×7・5キロレー、30キロフリーの5種目に出場予定。最大の目標であるオリンピック出場に向け、アジアの舞台でメダル獲得を目指す。清澤さんはアルペン競技のスラロームに出場する。

2回戦で姿消す

日本学生氷上競技選手権・ホッケー部門11月4〜9日、北海道苫小牧市・新とさわスケートセンター1ほか

1回戦は久留米大に12-0で快勝。2回戦は日体大に0-1で敗れ、2回戦で姿を消した。

高橋裕一監督は「選手たちは最後まで気持ちを前面に出して戦った」と健闘をねぎらい、東山哲士主将(法4・北海道)は「必死で戦い、いつも以上に力が入っていたので悔しい。後輩たちにはもっと上を目指してほしい」とエールを送った。(飛田翼・文2)



長谷川・陸上競技部新監督

箱根出場で伝統校復活に挑む

昨年12月5日、陸上競技部を約5年間支えてきた伊藤国光氏が監督を退任。新監督には同部OBの長谷川淳コーチ(平18)が就任した。11月18日に就任した。「いざれ監督を引き継いでほしい」と

と伊藤前監督より伝えられていたこともあり、これまで「監督目線を意識して選手を見てきた」と話す。

「選手第一の指導を大切にしたい」と話す長谷川新監督が考えるチームの強みは「選手たちが陸上を純粋に好きなこと」。

「春からは粒ぞろいな新人も練習に加わり、チームとして本格的に始動する。」

箱根駅伝出場88回を数える伝統校の復活へ、長谷川新監督率いる陸上競技部の挑戦を応援したい。(温井結・商2)

箱根駅伝出場88回を数える伝統校の復活へ、長谷川新監督率いる陸上競技部の挑戦を応援したい。(温井結・商2)

箱根駅伝出場88回を数える伝統校の復活へ、長谷川新監督率いる陸上競技部の挑戦を応援したい。(温井結・商2)

箱根駅伝出場88回を数える伝統校の復活へ、長谷川新監督率いる陸上競技部の挑戦を応援したい。(温井結・商2)

王座奪還へ野球部始動

野球部が1月11日、専大伊勢原グラウンドで2017年練習開始を行った。

選手たちはコンディショニングに努め、練習が終わると選手全員で校歌を斉唱。「もう一度専大生としての誇りを取り戻してほしい」という齋藤正直監督の提案だ。(飛田)

1月中旬は新主将の和田裕生(経済3・福岡大附大濠高)を中心に自主トレーニング。2月1日からはチーム練習、中旬より四国遠征を行う。

昨秋の東都大学野球リーグ戦は屈辱の最下位に終わった専大。目指すは2016年春季以来となるリーグ制覇だ。(飛田)

1月中旬は新主将の和田裕生(経済3・福岡大附大濠高)を中心に自主トレーニング。2月1日からはチーム練習、中旬より四国遠征を行う。

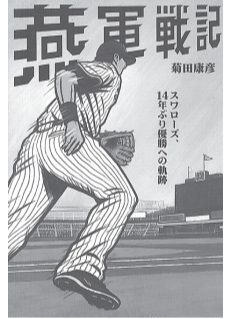
昨秋の東都大学野球リーグ戦は屈辱の最下位に終わった専大。目指すは2016年春季以来となるリーグ制覇だ。(飛田)

1月中旬は新主将の和田裕生(経済3・福岡大附大濠高)を中心に自主トレーニング。2月1日からはチーム練習、中旬より四国遠征を行う。

昨秋の東都大学野球リーグ戦は屈辱の最下位に終わった専大。目指すは2016年春季以来となるリーグ制覇だ。(飛田)

スポーツライターの校友・菊田康彦さん

コラムまとめ出版



カンゼン、1600円+税

野球を観るのが好きだった。球場に行くのが胸が高鳴った。いつしか、選手の高鳴る声や姿勢を、多くのファンの興奮を多くの人々に伝えたいと思った。

校友の菊田康彦さん(平元経済)はスポーツライターとして野球専用WEBサイトに東京ヤクルトスワローズのコラム連載、昨年コラムをまとめた『燕軍戦記』を上梓した。また、スポーツ配信チャンネルで米大リーグ(MLB)の解説も務めている。野球への情

熱を抱き続け、たどってきた自分の道。「選手の高鳴る声や姿勢を、多くのファンの興奮を多くの人々に伝えたい」と力強く語る。

菊田さんは、2007年、フリーライターに転身し、10年のシーズンから連載を開始。東日本大地震の半年後にアップしたコラムでは「一生懸命プレーする姿を被災者の方に見せる」という選手らの言葉を紹介した。

15年のセ・リーグ優勝までをまとめた『燕軍戦記』は初めての著書で、帯は2年連続でトリプルスリーを達成した山田哲人選手が飾った。

野球との出会いは小学4年生にさかのぼる。初

め後楽園球場で観戦した試合のナイター照明と人工芝の美しさは、40年たった今でも鮮明に覚えている。菊田少年の関心はプロ野球からMLB、そして英語へと広がっていった。

「英語を習得するのに大いに役立った」というのが、大学3年次の夏休



菊田康彦さん。大学時代、観戦のために通った神宮球場が今は取材活動の場になった

み、米サスケハナ大学(国際交流協定校)への短期留学だ。生きた言葉に触れ、初めてMLBの球場にも行き、感動に震えた。

大学では公務員試験の勉強に励み、卒業後は故郷の静岡県庁で働いたが30歳を目前に退職。ニューヨークへの語学留学、

英会話講師などを経て、スポーツビジネスを扱う都内の会社に入社した。そこでMLBの解説や記事の翻訳を担当したことで「もっと野球に携わりたい」との思いに火が付き、ライターとして身を立てることを決意した。回り道をしながらも夢を実現させた菊田さんにとって「人生はシューゲーム」。「本当にやりたいことはそう簡単に見つかるものではないが無駄な道はない。二転三転しながらでも、最後に自分で幸せだったと思えるようになればいいと思う。」

【ベースボールチャンネル新・燕軍戦記】
http://www.baseballchannel.jp/author/yasuhiko-kikuta/

剣道部員が中学生指導

浜松で地域貢献活動

12月26日から28日まで、静岡県浜松市で中学生を対象とした剣道の練習会が開かれ、剣道部員6人が講師として指導を行った。

錬成会は、冬季において大学生のトップ選手を招き、剣を交えながら積極的に自らの心身を鍛え、剣道の技術を磨く精神を育てることを目的とした。今回が第一回。開催地である浜松出身の選手が多くいる本学剣道部が講師派遣が依頼された。期間中、延べ300人の地元中学生男女が参加し、剣道部員の指導のもとに、厳しい稽古が行われた。

参加した中学生は「今まで経験したことがない



中学生に実演を見せ、丁寧に指導する剣道部員

霧囲いで厳しい練習でしたが大学生が見本を示しながら丁寧に指導してくれて大変勉強になった」と感想を述べた。

錬成会を企画した、浜松市立高台中学の松下智昭教諭は「上級者だけでなく、技術の足りない生徒にも積極的な声掛けをしてもらい、ライフスキルの向上という意味でも貴重な時間となった。中学生と比較的年齢が近い大学生が、模範を示してくれることで、参加者は明確な目標設定ができたのではないかと話した。

初めての企画だったが、指導が大変好評で「次年度も開催する方向で検討したい」との高い評価をいただいた。剣道部の地域貢献だけでなく、

く、学生が指導を経験する貴重な機会となった。浜松市出身の新井秀一朗さん(経済2・浜名高)は「教えられる側が教える立場になり、剣道の基本を再確認した。有意義だった。2日目は母校(浜松市立北星中)で後輩に指導し、自分の中学時代を思い出した。今後もこういった地域貢献活動に参加していきたい」と話した。

参加したほかの剣道部員は次の通り(敬称略)

▽塚本薫(法4・浜名高)▽中後真里奈(文3・横浜単人高)▽山田千聖文(文2・東福岡高)▽了戒一彰(商2・東福岡高)(剣道部長・齋藤実経営学部教授)